

5年生「海と親しみ、人と関わり、海とともに生きる海洋教育の推進」

サンプル

【実践のねらい】

豊かな三陸の海を素材に、自然条件と生態系との関連や自然環境と生活の関わりを追究する活動を通して、「海と共に生きる」ことの本質を捉えさせ、地域の生活や産業（水産業・観光業）について自分なりの意見をもち、地域の発展について考えさせる。海辺の環境と人々の生活との関わりについての考えを深めることができるように、磯の調査、ワカメ養殖体験、漁船乗船、関連施設見学等の体験的活動を取り入れる。自分たちの生きる地域を深く見つめ、未来像を話し合い、広く発信する活動を通して、主体的に学び、実践する力を育てる。

○時数 5月～3月 74 時間（総合的な学習の時間44、社会科22、理科8）

○関連 理科、社会科

- 目標
- （1）「海にふれる・海を知る」活動を行うことで、児童は、海を身近なものとして捉え、「海の環境と人間生活との関わり」について、自身の課題として考えることができる。
 - （2）港に実際に足を運んで海の様子を見たり、海を生かした仕事（水産業や観光業等）に従事する人の話を聞いたりすることで、地域の現状を共感的に捉えることができるとともに、「海と人の結びつき」の深さを実感することができる。
 - （3）「われらの新たなみなと町」をテーマに、地域の魅力を調査し、新たな魅力を創造するために名物を考案し、実際に発信する活動を通して、「海とともに生きる」ことの意義を考え、よりよい地域の創造に向けて意欲をもつことができる。

【主な連携機関と内容】

- ・〇〇市水産課：魚市場見学
- ・〇〇市産業センター：関連施設見学
- ・〇〇市環境課：環境調査
- ・漁業共同組合：養殖体験

